



# 聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

## きこえに関わる疲れ ～ リスニング・エフォートとは ～

### 1. リスニング・エフォートとは？

きき取りが難しい状況において、注意・集中を高めたり、きき取れなかった内容を推測したり、聴覚以外の認知機能も総動員して話を理解するような行為を意味します。

### 2. 学校生活で見られるサイン

- ・午後になるとぼんやりする／集中が続かない
- ・返事が遅くなる、発言が減る
- ・体育館や給食時間など騒がしい場所を嫌がる
- ・下校後、強い疲れや頭痛を訴えることも



### 3. 学校でできる配慮

#### 【授業】

- ・板書やプリントで視覚情報を増やす
- ・話す前に名前を呼ぶ
- ・長時間の説明は区切って行う

#### 【休み時間】

- ・グループ遊びでルール説明を文字やジェスチャーで補う

#### 【行事】

- ・体育館・運動場では補聴援助システム（ロジャーマイク等）を活用したり、視覚情報を示したりする



補聴器や人工内耳をつけていても、雑音・反響・話し手の位置などによりきき取りの負担は大きくなります。

### 4. 周囲に伝えたいこと

- ・「聞こえている＝楽に聞いている」ではありません。
- ・疲れやすさは見えにくいいため、本人が「疲れた」「きこえづらい」と言いやすい雰囲気づくりが大切です。

#### 💡 まとめ

聴覚障害のある子は、「きく」だけで私たちが想像する以上にエネルギーを使っています。

見えない疲れを理解し、環境調整＋休息＋視覚情報でサポートしましょう。

参考：「CDC（コミュニケーションときこえのラボ）」のホームページ

<https://cdc.lab.ibaraki.ac.jp/>

